

第1回松本城・城下町写真エッセーコンテスト

佳作 「鳥城」 逢澤 寿子



鳥城

逢澤 寿子

五層六階の国望松本城天守のライトアップ観い城が夜空に涼々しくパランスの取れた気品さをかもし出す、昼はお堀に映る天守閣に登るが如く城の主なる白鳥の優雅さに旅人の心を奪う。

内堀を前に総堀に東庁舎を落とす、松本市役所本庁からの眺望東の袴腰にその源を発し千歳万化の流れに四季彩を乗せ優しい響きの女鳥羽川、二代藩主石川康長が歳近くに流れを寄せたとも聞く。

「咲き終えて核は山の木に還る：・落男」北に天飼城山のある丘陵と下に放光城とある書物にあり地名に歴史を感じる。

西の日本アルプスはここ此の地ならでは真白な御嶽山・剣先みする箱ヶ岳此の山は播磨上人と新橋の大飯屋佐助等が聞いた・富士山に似たる常念岳・雲が羽を広げる雪形の蝶ヶ岳・鹿島槍ヶ岳・連山白馬迄四季の詩絵を信景に絶妙な調和。